◆「LRRI メルマガ」 令和 7 年（2025 年）6 月号◆

★新入会員をお迎えしました

令和７年６月４日の令和６年度第７回理事会（役員会）で，茨城大学講師（令和７年４月，早稲田大学から赴任）：伊藤大知様を協力会員として入会を認めさせていただきました。ご活躍を期待しております。

★LRRI 会員が土木学会から表彰されました

協力会員：小峯秀雄様（早稲田大学教授）が 6 月 13 日における土木学会年次総会で「令和 6 年度土木学会研究業績賞」を受賞されました。受賞対象業績は以下の通りです。

「原子力・エネルギー分野および新しい環境分野と協働する地盤工学の展開」

心からお祝い申し上げます。なお，早稲田大学，茨城大学と LRRI が連携して小峯秀雄様から記念のお話ししていただくことを企画しております。

★賛助会員の実用新案登録のご案内です

賛助会員・PEDI さま提案技術「洪水と共存できる住宅モデル～ピストンハウスシステム～」が日本の実用新案に登録されました。詳細は以下の資料をご覧ください。

file:///C:/Users/kazuy/Downloads/PEDI%20Insights%20Vol.7_Japanese.pdf

なお，現在，国際特許申請を計画中とのことです。

★「役員＆会員だより」令和 7 年 6 月号をお届けしました

本号は，賛助会員・足立雅樹様（みらい建設工業㈱）に執筆いただきました。タイトルは。「竹の魅力と私のかかわり」です。竹は魅力的な材料で，学ぶことが沢山あることがよくわかります。本編は HP にも掲載していますので，ご一読ください。なお，引き続き会員の皆様のご投稿をお待ちしております。ご希望の方は，事務局（staff@lrri.or.jp）までお気軽にご一報ください。

★「第 5 回技術者講座」を終了いたしました

・令和 7 年 5 月 14 日＆21 日に（一財）土木研究センター様との共同開催で実施しました「第 5 回技術者講座」は両日とも 150 名近い方々のご参加を得て好評裏に終了いたしました。アンケート結果の分析が終わりましたらご報告をいたします。

★「流域治水」に関する書籍を出版しました

末次顧問著「激甚水害に対する国土強靭化のための流域治水－全体最適化の視点で流域治水を成功させる－」が出版されました（【添付資料 1】を参照してください）。技術資料のご提供をいただきました会員さまには厚くお礼申し上げます。なお，みなさまからのご購入依頼をお待ちしております。

★令和 6 年度下半期（から令和 7 年度上半期へ向けて）の行事予定です

・令和 7 年 7 月 16 日：5 周年講演会（特別講演者：太田秀樹・東京工業大学名誉教授）
（【参考資料 2】を参照してください。HP にもアップしております。）

・令和 7 年 8 月下旬：総会＆会員交流会

★LRRI 技術情報 Vol. 3 を発行します（再掲）

令和 7 年 7 月発行予定です。タイトルは以下の通りです。

・常田賢一著：(1) 令和6 年能登半島地震による鉛直地震動の特性－新たな脅威、鉛直地震動－，(2) 傾斜地の地盤流動特性に基づく地盤流動対策の技術的検討－壁式改良工法の適用－

・末次忠司著：流域治水は水害に対して救世主となるか－流域治水の概念と主要な対策－

・安原一哉・岸田隆夫・足立雅樹・浅田寛喜・山田岳峰・小浪岳治・小林薫：LRRI における気候変動対応策に関する研究

★FS 工法に関する報告会を開催しました

メルマガ 4 月号でご案内しましたように，令和 4 年度から開始しました「軽量地盤材料を用いた耐震補強工法の性能評価に関する研究」（茨城大学，㈱JSP，東亜建設工業㈱，（一社）LRRI の共同）が令和 7 年 3 月 19 日をもって終了しました。これを踏まえて，去る 6 月 10 日にオンサイトとオンラインで成果の報告会を開催いたしました。

一般社団法人 地域国土強靭化研究所(LRRI:エルリ)

インフラリハビリ研究会
2024年度共同研究成果発表＆商品説明会

◆日時　2025年6月10日AM10:00～12:00
◆場所　岡三リビック株式会社　本社（オンライン）

【MENU】
①10:00～10:10　ご挨拶　一社）地域国土強靭化研究所 安原一哉代表理事
（EPS開発機構　会長）
②10:10～11:00　研究会メンバー　工法説明or最近の実績報告
アキレス㈱、昭和コンクリート工業㈱、㈱JSP（関電工）
③11:00～12:00　**FS工法"軽量地盤材料を用いた耐震補強の性能評価に関する研究"**
発表者　東亜建設工業㈱　川崎綾太（元茨城大学大学院）

【ONLINE ADDRESS】
Microsoft Teams
今すぐ会議に参加する
会議 ID: 438 510 756 051 1
パスコード: Am3mP9jZ

今後は，IT'S（https://www.pref.ibaraki.jp/doboku/kensa/kanri/07nechis/index.html）の報告会でも公表予定です。

★「土木技術資料」（令和 7 年 6 月号, Vo.69, No. 6）が届いています

（一財）土木研究センターさまからのご案内です。以下の URL から抄録がご覧になれます。

https://www.pwrc.or.jp/wnew2501.html#mokuji

【添付資料 1】新刊図書案内

新刊図書案内　　河川技術者・河川管理者　必読！

激甚水害に対する国土強靭化のための流域治水

－全体最適化の視点で流域治水を成功させる－

著者：末次忠司　　編集・発行：（一社）地域国土強靭化研究所　安原一哉
体裁：B5 判、カラー印刷、本文 156 ページ＋技術資料 31 ページ
定価：2,000 円（税抜）　＊送料は別途、実費　　販売開始：2025 年 5 月▲日

水害に対応するための流域治水について完全網羅！

近年、激甚化している水害に対する国土交通省の重点施策が流域治水です。流域治水は地域を一つの流域と捉え、地域特性に応じた形で、ハード・ソフト対策一体で多層的に進める方策で、多くの対策メニューがあります。氾濫域を含めた対策により、今後水害が軽減されることが期待されますが、多くの機関や部署が施策に関係するため、対策の実行までに長い時間と費用がかかることが懸念されています。

実際、堤防改修や霞堤、広域避難などにおいて、施策の実施が難しい場合がありました。今後更に氾濫域を含めて、流域治水を展開していくためには、こうした課題を解決するとともに、過去の成功事例に学んでいく必要があります。本書では流域治水の成功のカギは技術面、機能面から考察しています。また、総合治水の課題を踏まえて、流域治水へ向けた動き、各対策の概要はもとより、対策を成功に導いた事例を参考に、今後どう対策を適用・実施していくべきかについて解説を行いました。

また、これまで他書では取り上げられなかった「流域治水対策の実現性と経済性」に関して、対策ごとの実現可能性と経済効率性の関係について説明した他、治水と環境の両立を目指したグリーンインフラについては、章立てして事例の解説を行いました。主なものでも、流域治水は 51 事例、グリーンインフラは 8 事例を取り上げています。事例の概要や成功の秘訣が一目で分かるように、付録に表形式でまとめています。

【お問合わせ先】
（一社）地域国土強靭化研究所（LRRI、URL：https://lrri.or.jp/）　安原一哉
〒311-0105　茨城県那珂市菅谷 4527　　TEL：090-2639-5174　　E-mail：staff@lrri.or.jp
＊LRRI では注文の受付は致しませんので、下記にお願いします。
＊本書に関する出前講座、講演を希望される場合は、適宜対応しますので、御連絡下さい。

【書籍購入の注文方法】
注文、支払いは下記にお願い致します。注文受付後、下記より配送致します。

東京官書普及(株)　〒101-0054　東京都千代田区神田錦町 1-2　TEL：03-3292-3701
URL：http://www.tokyo-kansho.co.jp　　土木関係専門書籍販売サイト　シビル Books
地域国土強靭化研究所書籍販売サイト[東京官書普及(株)]（tokyo-kansho.co.jp）

＊購入の注文を FAX でされる場合は、裏面の注文書に記入後、裏面記載の FAX 番号へ用紙を送信して下さい

目　次　　全 10 章で構成

1. 激甚化する水害被害と関係する要因
2. 総合治水のはじまり
   2.1　総合治水の萌芽
   2.2　総合治水の課題
   2.3　特定都市河川浸水被害対策法の制定
3. 流域治水の経緯と変遷
   3.1　流域治水への転換
   3.2　流域治水へ向けた動き
   3.3　流域治水の変遷
   3.4　流域治水と総合治水の相違点
4. 流域治水手法と実施事例
   4.1　流域治水手法の概要
   4.2　各手法の対策について（特記事項）
   4.3　進化する流域治水
   4.4　流域治水の推進に向けた取組
   4.5　「氾濫をできるだけ防ぐための対策」と事例
   4.6　「被害対象を減少させるための対策」と事例
   4.7　「被害の軽減・早期復旧・復興のための対策」と事例
   4.8　流域治水の国際比較
5. グリーンインフラ
   5.1　グリーンインフラの経緯と考え方
   5.2　グリーンインフラ事例
   5.3　グリーンインフラ展開における課題
6. 流域治水手法の実現性と経済性
   6.1　流域治水手法の実現性と経済性
   6.2　流域治水の推進・普及に向けて
7. 流域治水を成功させるカギ
   7.1　全体最適化の視点
   7.2　技術面・機能面等から見て
   7.3　他領域との連携
8. 水害裁判に見る流域治水
9. まとめ
10. 今後の課題

全ページがカラーで、
2,000 円（税抜）！

流域治水の内容と工夫・効果が事例ごとに網羅

今まで取り上げられなかった「対策の実現性と経済性の関係性」が分かる

流域治水対策の成功のカギを技術面、機能面から見られる

著者紹介
（一社）地域国土強靭化研究所顧問・
山梨大学教授・国総研河川研究室長・
都市河川研究室長・博士（工学）・
技術士（建設部門）
専門分野：防災・減災工学、河川工学、水理学、リスク学

FAX 番号　03-3292-1670

ご注文書

激甚水害に対する国土強靭化のための流域治水
－全体最適化の視点で流域治水を成功させる－　**定価 2, 200 円（税込）**

注文部数　　部

お名前

法人名

（法人の場合は所属とご担当者名）

ご送付先　〒

お電話

【添付資料 2】設立 5 周年記念講演会ご案内

～（一社）LRRI 設立５周年記念講演会ご案内～

（一社）LRRI も設立して 5 年が経過しようとしています。お陰様で活動を通じて少しずつ認知が広がって参りました。社是である“先義後利をもって利他共栄を目指す”を念頭において，地域国土の強靭化など，社会貢献を一層進めて参りますので引き続きご支援のほど，よろしくお願いいたします。

設立 5 周年の記念行事の一環として別紙のような記念講演会を予定しております。ご参加いただきますようご案内いたします。

― 記 ―

【日時】：令和 7 年 7 月 16 日（水） 13:30 – 17:00

【場所】：茨城県産業会館 1 F 大会議室（オンサイトのみ，WEB 開催なし）
・所在地： 〒310-0801 茨城県水戸市桜川 2 丁目 2-35 ・電話： 029-227-7121
（URL（http://www.is-kaikan.or.jp/） をご参照ください。

【タイムスケジュール】
◆開会の挨拶：14:00-14:10 （一社）地域国土強靭化研究所
◆ご講演 （14:10 – 15:40，ご講義 60 分，質疑 30 分）
●講師： 太田秀樹さま（中央大学研究開発機構教授, 金沢大学名誉教授, 東京工業大学名誉教授）
●演題：チャンと調査をしてみたら、チャンと計算してみたら、思ってもいなかった結果が出てしまった事例
＜休憩＞ 15:40 -15:50
◆パネルディスカッション 15:50-16:50 ～事例から学ぶ～（仮題）
＜パネリスト＞（敬称略）
・太田秀樹（中央大学研究開発機構）
・（行政から）未定
・（コンサルタントから）後藤政昭（㈱地盤試験所）
・（ゼネコンから）山田岳峰（鹿島建設㈱）
◆閉会の挨拶：16:50 – 17:00 （一社）地域国土強靭化研究所

【共催】
（公社）地盤工学会関東支部

【後援】
（一社）茨城県建設コンサルタンツ協会
土木学会関東支部茨城会
（一財）土木研究センター

【参加料】 無料

【CPD ポイント】
地盤工学会から付与していただく予定

【お申込み】下記宛てご連絡ください。
LRRI 事務局 staff@lrri.or.jp

～記念講演概要～

【演題】：「チャンと調査をしてみたら、チャンと計算してみたら、思ってもいなかった結果が出てしまった事例」

【講演者】：太田秀樹先生（中央大学研究開発機構教授，金沢大学名誉教授，東京工業大学名誉教授，令和 6 年春瑞宝中綬章叙勲者）

【講演概要】：悠久の時間と強大なエネルギーを使った自然の営みを通して、神様が造ってこられた地盤。人智が透徹していない未知の世界が、地盤のなかには驚くほど多く潜んでいる。その未知の世界を、知力を傾けて人間が切り拓いてきた。世代から世代へと伝えられてきた、地盤に関する知見。これが、私たちが受け継いできた智恵であろう。その智恵のおかげで、私たちの生活は 1000 年前と較べて、はるかに快適になってきている。ありがたいことであるが、今現在の段階でも初めて気が付くことが結構ある。新たな発見である。チャンと調査をしてみたら、チャンと計算してみたら、思ってもいなかった結果が出てしまったという経験。それは長い技術者仕事のなかで、おそらく誰もが経験していることであろう。私も「えー？」と思うようなことを、何回か経験した。そのような事例の幾つかを、お話ししたい。ついでに人生観とか老人の健康維持についても、駄弁を弄したい。

【講演者ご略歴】：1971 年 京都大学工学部助手，1971 年 京都大学工学部講師，1972 年 京都大学工学部助教授，1980 年 アジア工科大学助教授，1984 年 金沢大学助教授，1985 年 金沢大学教授，1998 年　　金沢大学名誉教授，1998 年 東京工業大学大学院教授，2004 年 地盤工学会　会長（2006 年まで 2 年間），2009 年　東京工業大学名誉教授，2009 年 中央大学研究開発機構教授

2022 年 10 月 18 日-29 日東京開催のマスターズホッケーワールドカップで 75-79 歳の日本代表チームのゴールキーパーとして出場：①1-3 負け ②1-1 対 ③0-10 大敗 ④0-2 負け ⑤2-1 勝の戦績。オーストラリア代表 70-74 歳に 10 点入れられた試合終了直後の、無念さを滲ませた GK 太田秀樹（78 歳）の表情。